



Annual Report
年次報告書
2017



立ち止まって対話する必要なんて本当にあるの？ マネーの影響とAKBNファンド ～影山知明×永田賢介トークセッション～



アカツキが2018年度から新たにスタートする取り組み、立ち止まり対話するための助成金「AKBN（アケボノ）ファンド」。そのキックオフとも言えるイベントが、3月31日に行われました。代表理事・永田のトーク相手は、永田がインターン（カバン持ち）時代にとってもお世話になった、影山知明さん。

会は、恩師とも言える影山さんに、アカツキが考える寄付について、問いを投げかけられるところから始まりました。

■新しいお金の力

影山：僕が2017年に、クルミドコーヒーに続く2店舗目であるお店「胡桃堂喫茶店」を作ろうとした時、クラウドファンディングをやるにあたっては寄付型ではなく出資型を選ぶことにしたんだよね。なぜかという、3万円というお金を受け取ったら、その3万円は返さなきゃいけないという気持ちが僕にはあるから。これは、前職の金融関係の仕事が影響しているのだと思うのだけれど、「寄付」という返さなくて良いお金を受け取ることに、なんとなくすっきりしない気持ちを抱き続けているんだよね。

永田：そうですね、NPOやソーシャルビジネスの世界でも「寄付に頼らずに運営しています」という言葉を聞くことがあります。もらうだけのお金は経営的に健全ではないという意味だと思うんですが、僕は「頼らずに」の逆は「誰の助けもいらない」というメッセージになるような気がするんです。いらないというと極端ですが、「自分でできる」「俺たちだけで大丈夫」だと。でも、NPOのファンドレイジングは「私達にはこういう夢やアイデアはあるけれど、自分たちだけでは無理だ」と宣言してしまうことだと思うんです。「あなたが必要です、一緒に参加しませんか」というポジティブなメッセージだと捉えています。



▷ 影山知明
クルミドコーヒー／胡桃堂喫茶店 店主

影山：なるほど。それはある種、自分の弱さを認める、受け入れることでもあるのかもしれないね。ただ、誰かのお金を託された側としては、直接的に金銭をお返しする訳ではない場合にも、金額以上の価値というか成果を生み出した気持ちはある。だからこそ生産性が大事という視点があると思うのだけれど、そこはどうだろう。

永田：もちろん、成果をきちんと見せていくことは大事ですが、正当性を説明することが求められすぎているようにも感じています。例えば、可哀想な人が何人いて、寄付でそのうち何人救ったのかを数値化するとか。でも、僕らがAKBNファンドで提案するような、まだよく分からない、説明がしにくい未来に、一緒にお金を出してくれる人も一定数はいてくれる。結局は、寄付者が本当に生産性を望んでいるのか？ということだと思うんです。こちら側の理論や勝手な思い込みで決めつけない。主役である寄付者のお話を、もっと聞いていかなきゃいけないと思います。そういう意味では、今回AKBNファンドに寄付くださった影山さんからも、漢字一文字に込めた想いを伺いたいです。

影山：僕は7番に『自』を入れました。最近の僕のテーマは『自然（じねん）』、つまり、自（おの）ずから然（しか）り、ということ。日本語には自動詞・他動詞という区別があるけれど、僕はやっぱり他動詞ではなく自動詞がいい。ファンドレイジングという言葉に違和感があるのも、相手のお金をレイズする、他者をコントロールするという思想が言葉に表れてしまっているように思えるところ。「社会を変えよう」という言葉もよく使われるけれど、ちょっと傲慢に聞こえる。達成したい理念、ミッションやノルマのために他者を動かさなきゃいけないという思考につながっているようで。それを手放そう、自動詞で行こうよと言いたい。

永田：はい、その通りだと思います。ファンドレイザーは、「我々は成果を出せます」ということを語り、人を説得してお金を集めますが、3千円よりは5千円、5千円よりも1万円、そして10万円より100万円集めた方がすごい、当然1億の人はスーパースター！みたいな価値観が、危険というか、今までと同じじゃないかと思うんです。社会貢献だ、お金儲けじゃないと言うけれど、ベースにある基礎的な思考はほとんど変わらないままのような気がして。

影山：そういう考え方が生産性の理屈だとすると、突き詰めれば人間の見方も、生産性に寄与できる人はいる価値があり、寄与できない人はいる価値がないという話になってきかねないよね。スタッフでも仲間でも、人間を利用価値で測るという目線にはまっていく罠を持っている。

アカツキが目指すのは、そういう社会じゃない。何か価値を生み出せようが生み出せまいが、可能性があろうがなかろうが、あなたに価値があるということを書いてあげたい。だからNPOがどんなに成果を生み出せていたとしても、その過程で、それをやっている人達が笑顔でいなければ、悲しんでいるのであれば、それは果たしていいことなのかということをお聞きしているんだね。

■立ち止まり対話すること

影山：クルミドコーヒーがオープンした10月1日は、僕らにとって一年で一番大事な日だけれど、実は去年は営業ができなかった。スタッフの半分が2つ目のお店に行き手薄な中で、前年と同じような営業をしようとして、お店全体にウワッと負荷がかかってしまって。みんな話合おうと、前日に営業を止める決断をした。アルバイトのみんなも全員が集まってくれて、それで何とか瀬戸際で立ちなおれたという感じだった。今年も3ヶ月ごとに、全社員がお店を離れて、朝から夕方まで議題を決めずに話をする時間を持つと思っている。これはとても大事で、涙する瞬間もあるし、心から笑うこともあるし、普段のミーティングでは受け止めきれない感情を、まさにそこで「棚卸し」している感覚。ベースにあるお互いの安心感や信頼感、それがあればたいていのことはうまくいくということも感じるようになっていたから、アカツキがやろうとしている立ち止まることの必要性や意義は本当に大事なことで、僕が身をもってお伝えしたいです。

永田：そういえば、僕は肉を食べないベジタリアンですが、そうなるから、コンビニの棚に陳列されている商品や食堂のメニューに色々な流行りが見えてくるようになったんです。それを知人に話したら「それは、ストライキだよ」と。すごい速さで流れていく社会の中で、取って立ち止まることで、相対的に社会の流れを知る行為なんだと教えてもらいました。



▷ 永田賢介
NPO法人アカツキ 代表理事・職員

電車に乗っていたらその速さには気づかないけれど、ホームで目の前を通過する時にはよくわかる、みたいな。仕事でも、立ち止まるまで気づかない、気づけないことがあるというのを体感として持っています。

影山：最後に一言。さっきまで、生産性なのかそれ以外のものなのか、結果かプロセスか、善か悪か、夢かそらばんか、みたいなことを話してきたけれど、二律背反で考えるとすごく苦しくなる。そこに対する僕なりのメッセージが「ゆっくり、いそげ」です。どちらか、ではなく、どっちも、なんだということ。ある時は夢、ある時はお金、両方をぐるぐる回していく楕円であり器の大きさを作っていくことが大事で、ある種の生きやすさにつながるのではないかな。あまりどっちだと悩まないことをおすすめします。

トーク中、会場の皆さんにも自己紹介をしてもらいましたが、驚くことに約30名のうち5名ほどが、最近退職した、退職を考えているからこのイベントに来た、という人でした。よくよくお話を伺ってみると、「退職の相談をすると家族や周りの人から、次の仕事が決まってから退職しなさい！と言われる。次の仕事を考える余裕がないからこそ、退職したいのに……」とのこと。

「立ち止まる」ことがネガティブに捉えられがちな今の社会の中で、AKBNファンドのように「立ち止まる」ことの意義を明確に発信している存在が嬉しいというコメントも頂きました。助成プログラムは単にお金を配るものではなく、新しい価値観を社会に提案していける存在だということを感じました。

左：書き起こし ▷ 田中沙知
アカツキインターン（当時）
右：編集協力 ▷ 小島理絵
アカツキフェロー＝正会員



■2018年度役員・職員ご紹介

永田 賢介 (理事/職員)

コンサルティングやセミナー講師から、会計や労務といった事務仕事まで幅広く担う。いづれでも、誰よりも早く犬猫を見つけて反応できる犬猫愛と保育士資格を持つ。



雪松 直子 (理事/職員)

永田と一緒に2人体制のチームでコンサルティングを行う。子どもが3人おり、中学一年生の娘に、小五の息子は双子。前所属団体の経験から、バランスボールインストラクターもできる関西人。



松島 拓 (理事)

共同創業者として、アカツキの基礎となる仕組みを作った。現在はAAR Japan[難民を助ける会]の駐在員として、ミャンマーで障がい者の生活支援に携わる。理事会にはWeb会議で参加。



知名 健太郎定信 (監事)

2018年度から監事に就任。天神の中心地で「七燈法律事務所」を開く弁護士であり、自身も別のNPOで非行少年の更生支援を行う。趣味はプロレスや格闘技という肉体派。



高柳 希 (理事)

大学卒業後、株式会社ビッグトゥリーを創業。自らの会社を運営しながら、アカツキにも理事として参画し、主に財務面で貢献。ディスカッションのための学びの空間「Dコート」を高宮駅前で運営している。



志賀 壮史 (理事)

NPO法人グリーンシティ福岡で身近な自然の保全や環境教育を行う。ファシリテーション・グラフィックの専門家。アカツキ理事会ではクライアントNPOや第三者の視点で冷静なアドバイスを行う。



兵土 美和子 (監事)

福岡大学を中心にプロジェクトベースの次世代教育プログラムを展開。会計監査はもとより、事業の方針について、「なぜそうなのか?」「本当にそれでいいのか?」と大局的な観点からの問いを投げかける。



白神 加奈子 (職員)

2018年9月からアカツキに入職、以前いた岡山県では公害地域の環境再生・まちづくりに取り組む財団に所属、福岡に移住後は大学でファンドレイジング業務に従事。趣味で長唄三味線を習う。

— アカツキ理事の10箇条 —

- ①アカツキのビジョンを自分のこととして理解すること
- ②理事会に参加すること
- ③アカツキのために時間をつくる覚悟があること
- ④最低限の社会性を有すること
- ⑤一般的なビジネススキルを有すること
- ⑥高いコスト感覚を有すること
- ⑦代表理事と対等に意見を述べること
- ⑧どんな人の話でも耳を傾け、受け止めること
- ⑨コミュニケーションを諦めないこと
- ⑩一度絶望したものの、かすかな希望を持っていること

「ことば」と「やくそく」を自分たちでつくる

アカツキは、設立当初からNPO経営における「理事会」の役割を非常に大きなものとして考えてきました。それぞれの仕事が忙しい中、月に1回(＋合宿や周年記念パーティー)のペースでの参画は決して軽い負担ですが、その時々メンバーの事情に合わせて、対話と議論を重ねてきました。

2016年から2017年にかけては構成メンバーに大きな変化もありましたが、事前に理事合宿で作成していた左の10箇条が、自分たちの大切にすべき基準として機能したため、新しく就任を依頼する役員においても、役割期待の説明がスムーズになりました。

会員・寄付者の皆様へ感謝を込めて 多くの人の力で開始した新しい取り組み

アカツキが、地域のNPO支援の現場で見出した課題を解決するため、新しく打ち出した、立ち止まり対話するための助成金「AKBN(アケボノ)ファンド」は、NPOが活動するための資金(事業費)ではなく、内部のメンバーと話し合う時間を確保するための資金(管理費)を拠出する、全国初の取り組みです。

この助成金30万円+30万円分のアカツキ無料コンサルティングの原資は、総会の承認を経てアカツキ会員の皆様からの会費を充当させて頂きました。そして、2年間に渡る全国各地の財団などのヒアリングや、理事会での議論にかかった経費については、寄付キャンペーンにて、60名の方々から約50万円を頂戴することで賄うことができました。心より感謝申し上げます。

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

「AKBN(アケボノ)ファンド」
立ち止まり対話するための助成金+コンサルティング
特別認定NPO法人アカツキ

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

「AKBN(アケボノ)ファンド」
立ち止まり対話するための助成金+コンサルティング
特別認定NPO法人アカツキ

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

「AKBN(アケボノ)ファンド」
立ち止まり対話するための助成金+コンサルティング
特別認定NPO法人アカツキ

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

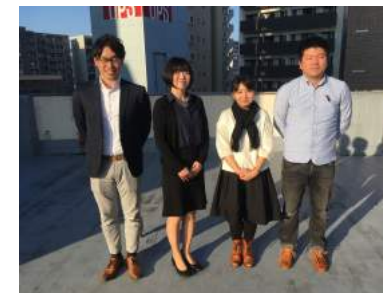


審査委員と審査会の工夫

AKBNファンドの助成審査を行う上では、多くの工夫を凝らしました。まずは審査委員の選出ですが、市民活動における「有識者」とは誰か?という問いをたてて検討した結果、それは「当事者」や「生活者」であるべきではないかという結論に至りました。

そのため、アカツキのクライアントになった経験があるNPO職員を委員長に。会員の中から、大学時代にボランティア経験のある会社員と、マイノリティ属性を持つ当事者を。そして職員雪松の4名とし、それぞれの観点ごとに持ち点を傾斜配分としました。特にマイノリティ当事者については、応募団体のWebサイトなどで、過剰に「貧困」や「弱者」などのラベリングがなされていないか、人権的観点でのフィルタの役割を期待しました。

審査会はプレゼンではなく、団体のスタッフ2名以上への対面ヒアリングを実施し、緩やかな雰囲気の中で行うことができました。募集開始から締め切りまでの時間が短かったこともあり、実際の応募は2件のみに留まりましたが「応募を検討することそのものが、団体内部のコミュニケーションのきっかけになった」など、嬉しい声を聞くことができました。



採択団体「改革プロジェクト(パトラン)」

選考の結果、第一回のAKBNファンドの助成先は、宗像を拠点に全国へ、パトラン(パトロールランニング)という、新しいスタイルの防犯活動を広げている「NPO法人改革プロジェクト」に決定しました。助成金は中期計画の策定を中心に、内部での勉強会や合宿に使用され、アカツキもコンサルタントとして同席します。



大阪でフルマラソンに挑戦します!

上記の「NPO法人改革プロジェクト」が大阪マラソンのチャリティ寄付先団体に選出されました!日頃から「伴走支援」を掲げるアカツキとしてはここで走らないわけにはいかないと考え、実際に永田と雪松が11月25日のフルマラソンに人生初挑戦します。また、出走の条件である7万円の寄付(うち2万円は自費)を、クラウドファンディングで集める取り組みも行います!私たちは頭や口だけでなく、実際に汗をかいて自ら取り組む姿勢を大事にします。



■ コンサルティングの姿勢と技術

アカツキに仕事を依頼して下さるクライアントがわかりやすいよう、我々の「取り扱い説明書」のような資料を準備しました。

アカツキの姿勢・約束・お願い

いそがばまわれ、ゆっくりいそげ。

- 一、代行や指導ではなく共に考え動きまわります
- 一、事業の基盤になる人・組織を大切にします
- 一、仕事の現場を重視し知る努力をします
- 一、団体内の事実を提案の根拠にします
- 一、プロ品質のみをご提供します
- 一、より小さな声に耳を傾けます
- 一、団体内の情報共有を重視します
- 一、連携や成果を社会に発信します

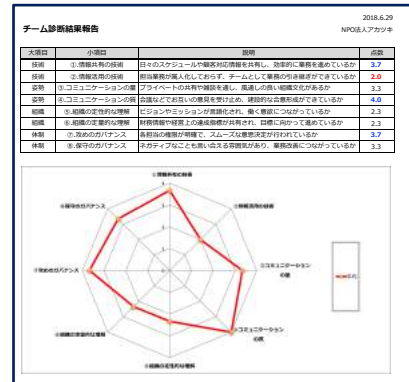


自分たちが苦手なことは正直にお伝えしています。「なんでもできます!」とは言いません。それは嘘になるので。



団体のスタッフや受益者、支援者の声を重視するため、時にクライアントの代表と意見がぶつかり合うこともあります。あくまでも「チーム」を支援します。

項目	作業内容	担当者	所要時間
1	事業体別業務作業リストの作成・更新	Y	1.0h
2	事業体別業務作業リストの共有・説明	Y	1.0h
3	事業体別業務作業リストの活用・実践	Y	1.0h
4	事業体別業務作業リストの改善・見直し	Y	1.0h
5	事業体別業務作業リストの共有・説明	Y	1.0h
6	事業体別業務作業リストの活用・実践	Y	1.0h
7	事業体別業務作業リストの改善・見直し	Y	1.0h
8	事業体別業務作業リストの共有・説明	Y	1.0h
9	事業体別業務作業リストの活用・実践	Y	1.0h
10	事業体別業務作業リストの改善・見直し	Y	1.0h



団体に介入する場合には、すぐに施策を打つのではなく、必ずヒアリングを行って現状を把握します。オリジナルで作成した診断ツールはこちら。

左は「事務診断」の結果で、60項目のリストをもとに、実際に事務所に伺って書類をチェックし、その結果を改善の優先度（S～A～B～C）ランクづけまでしてお渡しします。右は「チーム診断」の結果で、ヒアリング結果を分析し、項目ごとの組織内共有度をレーダーチャートで可視化します。



メタファシリテーションとは？

アカツキは、コンサルティングを担う職員の基礎・必須スキルとして、認定NPO法人ムラのミライが途上国支援の現場で独自に開発した「メタファシリテーション」を活用させてもらっています。年に1~2回は講座を受講し、永田は認定講師の資格も取得しました。

メタファシリテーションは、「なぜ?」や「どうして?」という質問を封印し、「いつ?」「どこで?」「だれが?」という事実に関する質問を繰り返していくことで、時に聞かれる側の本人さえも気づいていなかったような、過去の事実や課題の本質にたどり着くための、対話型のヒアリング技術です。

シンプルながら奥が深く、実用的な習得には数年を要し、まだまだのところもあります。支援先の主体を重視し、対等なパートナーシップを育みながら進む、技術と哲学を大切にしています。



■ 受益者の声

過去の整理から未来の展望を

NPOで起業してから4年。スタートアップの時期はがむしゃらに前を見て走って来ましたが、ふと、振り返ると後ろには細々した雑務のやり残しが。それと同時に、拡大してきた事業もある程度のキャパシティの限界が見え、未来をどう描けば良いのかと感じるようになりました。

小さな組織はなかなか事務や計画にエネルギーを割けないため、アカツキには、中期計画の策定の協力をお願いしました。NPOは自由度が高いからこそ、経営の難しさがあります。今回伴走支援を受けることで、理事・職員と共に頭の中でぼんやりと考えていたものを落とし込んでいくことができました。

非営利組織であっても、職員の雇用などのためには売上の管理も重要。そのために提案頂いた「やらないこと」のピックアップは新鮮でしたが、同時に「あそび」も重要であり、その両者のさじ加減が重要になるのは、これからだと感じています。



大橋 日出男 さん

NPO法人あすも特注旅行班 代表理事



主体を活かす価値観と距離感

今、団体の転換期にある中で、アカツキさんは私たちに必要なものを一緒に考えてくれ、主体である私たちの良さを活かしながら取り組み、メンバーの関わり方が積極的になりました。

永田さんはクールなタイプかと思っていましたが、私たちの立場に立って怒って下さる場面もあり、正義感を感じられて嬉しかったですね。価値観をしっかりと持ち、クライアントとの距離感を考えた絶妙な関わりに期待が高まります。

事務の目的や意味を知る

出張事務診断を受け、事務処理のできている点と足りない点など、自団体の現状がわかったのは助かりました。特に法務は、手続きの方法だけではなく、理由や関連性がわかりよかったです。

初めはアカツキに何をお願いできるのかわからなかったのですが、団体が自立するために、関わりを徐々にゆるめていくというアカツキの姿勢は、海外の支援の現場でも考えていたことであり、とても健全だと思っています。



陶山 恵子 さん

NPO法人フードバンク北九州 ライフアゲイン 理事



馬田 英樹さん

NPO法人九州海外協力協会 理事/事務局長

「やれるかも」で個人の可能性を拓く

事実質問の入門セミナーを受講しました。受講してよかったなど、強く思います。「これは何ですか?」という質問から、物事のひとつひとつを明らかにしてゆくので、状況が掴めていない時や行き詰まりを感じた時に、頼りになります。

「案外、俺でもやれるかも?」という、個人の可能性をひらくような、そんな講座と事業の展開を期待しています。



中牟田 政也 さん

日本郵便 宗像郵便局 アカツキサポーター会員

外部の関わりで内部が見えてくる

アカツキさんのおかげで、スタッフの思いを聞くことができました。みんながこんなにもチャイケアのことを思ってくれていたことを知り涙ができました。各自がチャイケアに入った頃の気持ちや日頃の思い、これからしたいことを文字にすることで、気持ちの整理と確認ができました。目標が定まり、仕事に対するモチベーションアップにもつながったと思います。



大谷 清美 さん

NPO法人チャイルドケアセンター 代表理事

■ 連携先の声



関口 宏聡 さん

認定NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 代表理事

「運動」と「事業」の両輪で、これからも活躍を！

アカツキさんにはシーズの活動の様々な面でご協力ご支援いただき、本当に感謝しています。シーズも認定取得支援等のコンサル事業を行っていますが、NPO法改正や寄付税制拡充等のアドボカシー活動・ロビイングにも日々取り組んでいます。うちも苦闘の毎日ですが（笑）、運動と事業の両立を目指して、一緒に頑張っていきたいと思います。これからも応援しています！

アカツキの伴走は「伴奏」

福岡と埼玉なのに、なぜかご近所さんって感じです。それは どんなうちゃうちゃしたことにでも「立ち話」し続けられるアカツキの“ご近所付き合いかの能力”のおかげかと。

そして、いろんな思いを奏でる場に可能性を感じ、想像外の音が出ることに期待さえしている心意気が大好きです。でも時に伴走者だって疲れる・・・はず。そんな時はたくさんジタバタしてくださいね。喜んで私も伴走者になりたいから。ヨロヨロしがらも。きっと。

吉田 知津子 さん

NPO法人ハンズオン埼玉 理事



NO
Photo

行政職員Tさん

委託事業でアカツキと協働

「事務」で支える信頼と多様性

アカツキさんと一緒に仕事をして感じたことは、NPOがこれまで以上に広く社会に受け入れられるためには、活動を支える組織運営や積極的な情報公開の充実に加え、市民及び他のセクターから信頼を得る不断の努力や、多様性を受け入れる寛容さが必要であるということでした。

今後も、多くのNPO関係者に寄り添って支援していただくことを期待しています。

■ 支援者の声

林田 暢明 さん

総務省地域力創造アドバイザー
TAOオーナー

福岡が暁の来光を浴びる日は来るのか

福岡はその昇る太陽の光に遍く照らされているのだろうか。とにかく福岡はすごい街なんだ、という空気が漂う中、「アカツキ」という名には、まだ夜明け前だ、という現状に対する想いが込められている。NPO法が施行されて20年。日本は「社会課題先進国」なのだという。もはや、絶望的な気分になる。実際、この国は「社会課題解決先進国」にはなっておらず、社会課題だけが山積されていっているのだ。

協働が進む、ということに留まらず、アカツキには、福岡の社会課題が解決されているかどうかを指標にして欲しい。永田君を筆頭にアカツキのメンバーは、左手にリラックマ、右手に志の一燈を掲げて、道なき道を進むのだ。暁の陽光が見えるその時まで。



丁寧な仕事を見て自分を振り返る

ファンドレイザーのつながりで出会ったのがアカツキでした。一緒に仕事をしたり何気ない会話したりしていく中で、ひとつひとつの事にどこまでも丁寧に向き合う姿をみて、素直に「応援したい」と思ったのが会員になったきっかけです。応援とは言いつつも、私がアカツキの活動から得る気づきもたくさんあります。自分もがんばろうと背筋が伸びるような、そんな存在に感謝しています。



谷口 真菜実 さん

アカツキサポーター会員
マイナビ農業
元・認定NPO法人グッド
ネバーズ・ジャパン

人と人が話し合う余白をつくりだす

社会に出て、人と人が心から話し合う機会が少なくなっていると感じています。また、話し合いの場を誰かが必要としていても、後回しにしてしまったり、場を設ける声を発することができない状況が起きていると思います。

地道に、話し合うことに時間をかけることは、人と人が分かり合える一歩なるのではないかと思ひ、寄付いたしました。これからも暖かく、見守りながら支援していきたいです。



皆川 奈鶴美 さん

AKBNファンド寄付者
元・アカツキインターン
会社員

■ アカツキ 3大NEWS！

①認定NPO取得！

アカツキは2018年8月3日付けで「認定NPO法人」を取得することができました！会計の透明性や組織運営等が適正であること、多くの人から寄付や会費などの形で支援を受けていることなど、8つの要件を満たし、高い公益の増進に資すると判断されたもので、様々な税制上の優遇措置があります。

認定・特例認定NPO法人は全国で5万超えるNPO法人のうち、約1,000団体・2%が取得しており、福岡県では6月末付で約1,800団体のうち、26団体ほどです。

日頃様々な形でアカツキに参加くださっている皆様のお力、アカツキをここまで連れてきてくださったと言っても過言ではありません。心より、感謝申し上げます。

②事務所移転！

事務所を、薬院から博多駅近くに移転しました。以前のオフィスでは量の側でコレクティブスペース「エンガワ」を、食卓や小規模イベントスペースとして活用し、多くのコミュニティが生まれてきました。また、毎年大掃除の時期、そして今回の引っ越し作業においても、アカツキのクライアント・支援者・職員の家族まで、多くの方がお手伝いに駆けつけてくださいました。

また、スタートアップ期のアカツキが、ランニングコストを抑えつつ人に投資できたこと、適切に書類を管理する場としてのスペースを確保し認定NPOまでたどり着けたことは、初期の薬院事務所を格安で貸してくれたTAO・林田さんのお陰です。ありがとうございました。

③新職員加入！

3人目の職員として白神加奈子（しらがかなこ）さんが加入してくれました。これまで3年ほど、アカツキのイベントの参加者、企画運営ボランティア、会員など様々な立場で関わってくださっていたことから、お声かけさせて頂きました。

アカツキは職員採用の公募をしないため、ここ1年ほどは、4~5人ほど職員候補となりそうな方に個別でお声かけしておりましたが、なかなかマッチングしなかったため、待望の新職員です。

基本的には、会計や労務などのバックオフィス部分を永田・雪松と役割分担して担ってもらいますが、プロジェクトマネジメントの知見と経験が深いため、全体の進行管理なども期待しています。

■ その他展開

*左上：タイのバンコクで開催されたファンドレイジングに関する国際的なカンファレンス「IFC Asia」に、参加してきました

*右上：トヨタ財団が発行する広報誌「JOINT」にて、山岡義典さんとの対談記事が掲載されました

*左下：福岡市の共働アドバイザーとして、各課長向けの研修を企画設計からコーディネーションしました

*右下：東京で開催された「NPO法成立20周年記念フォーラム」にコーディネーターとして登壇しました



■活動計算書 (2017年4月1日～2018年3月31日) ※概要版

科目			金額(円)
経常収益	受取会費	正会員/サポーター会員	507,000
	受取寄付金		697,500
	事業収益	(1)コンサル事業収益	3,914,580
		(2)人材育成事業収益	1,704,280
		(3)調査研究事業収益	167,448
	その他収益	受取利息/雑収益	214
	経常収益 計		6,991,022
経常費用	事業費	人件費	2,694,981
		諸謝金	128,000
		会議費	23,210
		支払手数料	13,674
		旅費交通費	745,001
		消耗品	30,516
		印刷製本費	34,006
		交際費	107,153
		租税公課	1,200
		賃借料	124,500
		通信運搬費	27,026
		研修費	20,060
		新聞図書費	11,428
		諸会費	40,800
		事業費 計	4,001,555
	管理費 計		1,877,105
	経常費用 計		5,878,660
	当期経常増減額		1,112,362
	法人税、住民税及び事業税		71,000
	当期正味財産増減額		1,041,362
	前期繰越正味財産額		2,060,521
	次期繰越正味財産額		3,101,883

調査研究事業収益
地域の補助金・助成金の審査委員報酬や、NPOセンターの発行する情報誌の監修謝金などが含まれています。

旅費交通費
コンサルティングの依頼案件が多くなったことで、北九州や八女などの遠隔地も含め、職員の交通費が増えています。

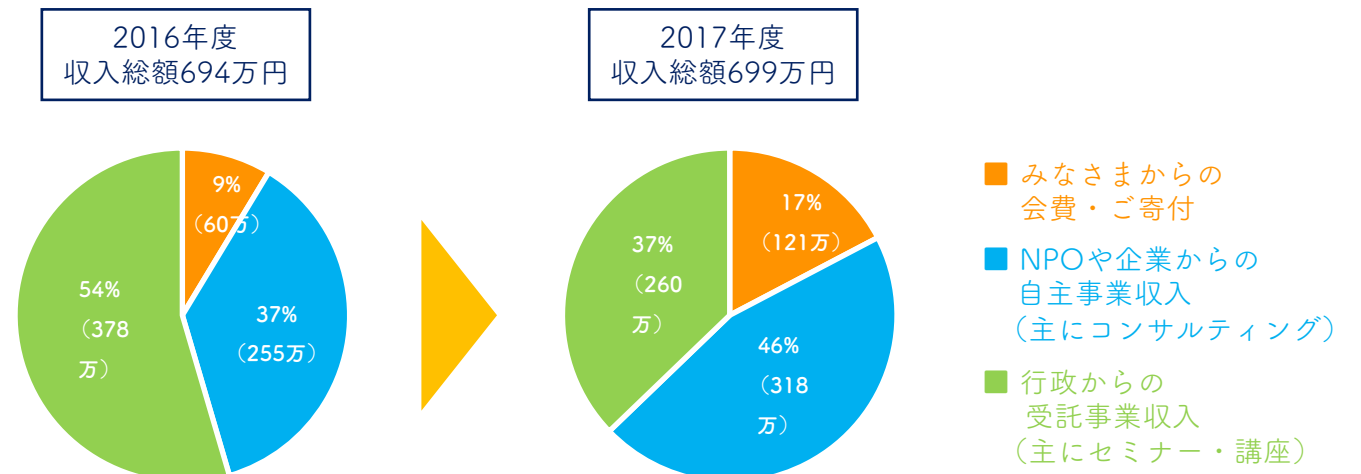
交際費
クライアントや出張先への土産や、懇親会への参加費も適切に予算化しており、総会でも前向きに捉えていただきました。

研修費
予算化していましたが、忙しさにまかまか、機会をつくっていませんでした。2018年度は雪松が「起業の学校」参加予定です。

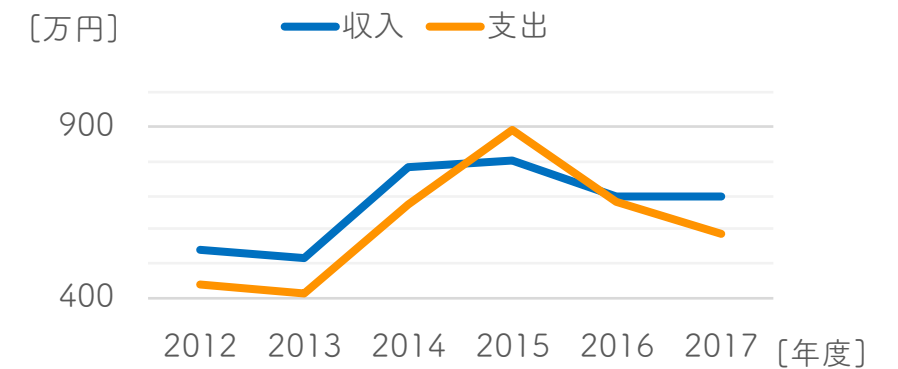
管理費
事務所家賃、水光熱費、税理士顧問料、役員合宿、アニュアルレポート制作費、総会開催費用などを含みます。

■財務分析と今後の方針

2016年度のアニュアルレポートにてお約束しておりました通り、行政の受託事業を減らし、その分確保できた時間で、コンサルティングによる自主事業収入を増やすことができました。結果として、**収入総額はほぼ変わらないものの、財政の健全度は大幅に向上しています。**アカツキが民間の非営利・市民活動として、大切に信じている事業に取り組めているのは、支援者のみなさまのおかげです。心より感謝申し上げます。



2015年度に発生した赤字を回復し、決算時に約300万円を繰り越すことができます。今後は、内部研修による職員のトレーニングと共に、給与を安定した水準に上げていくこと、そして**現在増えつつある他県のNPOや企業からのコンサルティング依頼に対応できる体制を整えていきたい**と考えています。



■貸借対照表 (2018年3月31日現在) ※概要版

資産の部		負債の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
流動資産		流動負債	
現金	18,426	未払金	289,800
普通預金	2416,292	預り金	2,400
現金・預金 計	2434,718	未払法人税等	71,000
未収金		負債の部 合計	363,200
売上債権 計	1,025,320	正味財産の部	
流動資産 合計	1,025,320	正味財産	
立替金	5,045	前期繰越正味財産額	2,060,521
その他流動資産	5,045	当期正味財産増減額	1,041,362
計		正味財産の部 合計	3,101,883
資産の部 合計	3,465,083	負債・正味財産の部 合計	3,465,083

上記の事業報告書及び計算書類が、NPO法人アカツキの2018年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

監事 兵土 美和子

アカツキの仲間になってくださってありがとうございます (氏名公開可の方のみ、順不同)

【フェロー(正会員)】
宇都 龍志さん 小島 理絵さん 小淵 亮兵さん 鈴木 大空さん 多原 真美さん 野崎 大雅さん 池本 桂子さん 富永 沙和さん 古橋 範朗さん 藤見 里紗さん 大島 隆さん 稲月 ひかりさん 大庭 勇さん 原口 尚子さん 黒田 美穂さん 仲野 美穂さん 梅崎 友貴さん 加藤 健太さん 大倉 慶子さん 青木 玲奈さん

【サポーター会員】
青木 絵美様 岡 優子様 栗田 将行様 平由以子様 中園 明日香様 松田 美幸様 マクリ マイケル様 八尋 さおり様 原田 君子様 影山 知明様 松島 弘哉様 村田 那菜子様 山中 祥子様 坂崎 あゆみ様 増永 弘子様 相浦 圭太様 清水 隆哉様 鶴田 文隆様 本田 正之様 宮田 智史様 渡邊 裕子様 牛嶋 麻里子様 福岡 佐知子様 河合 将生様 天川 公次様 鹿野 翔様 白神 加奈子様 谷口 竜平様 金子 雄一郎様 池本 真一様 植村 康子様 高橋 あづさ様 立花 祐平様 渡邊 浩美様 森田 義也様 今村 晃章様 福留 裕一様 梯 愛依子様 久保 みなみ様 大久保 大助様 四宮 淳平様 鳥居 亜佑美様 大田 弥生様 上村 一隆様 伊藤 次郎様 仲西 浩一様 田北 雅裕様 加留部 貴行様 佐藤 貴美様 兵土 美和子様 福井 崇郎様 末本 晴香様 上角 梓様 中牟田 政也様 岩永 真一様 牧園 祐也様 三上 雄様 三上 美佳子様 小島 美緒様 谷口 真菜実様 執行 沙恵様 河内山 信一様

【つきつきサポーター】
野崎 大雅様 青木 玲奈様 フィッシュ 明子様

【AKBNファンド寄付者】
小島 理絵様 池本 真一様 布田 剛様 関口 宏聡様 河合 将生様 中牟田 政也様 吉崎 謙作様 松浦 純子様 仲西 浩一様 山田 健一郎様 上村 一隆様 常田 貴清様 河野 菜津子様 五井 利明様 河内山 信一様 宮本 聡様 あすも 特注旅行班様 山崎 基康様 大庭 欣二様 会沢 裕貴様 清水 隆哉様 園田 江里佳様 佐藤 貴美様 小園 真起子様 影山 知明様 白神 加奈子様 清水 舞子様 相浦 圭太様 工藤 啓様 馬田 英樹様 佐藤 綾乃様 浅井 美絵様 栗原 裕子様 小森 耕太様 吉良 幸生様 稲月 ひかり様 賀内 麻由子様 安孫子 健輔様 大室 直子様 佐々木 悠史様 富永 沙和様 松原 明様 青木 玲奈様 皆川 奈鶴美様 目叶 貴史様 南 伸太郎様 坂崎 あゆみ様 梯 愛依子様 大倉 慶子様 池田 明彦様 山内 泰様 実吉 威様 北堀 亮子様 小橋 祐子様 黒田 美穂様 宮下 和佳様